

「種山ヶ原はいま⑱」 7・30

東菊・レンゲツツジに代わり、ヤマユリ・アヤメ・ウバユリ・山アジサイが咲き、種山ヶ原も夏に入ろうとしています。山アジサイの花の色は「澄んだ青い空の色」で格別です。やがてピンクになってきますが。

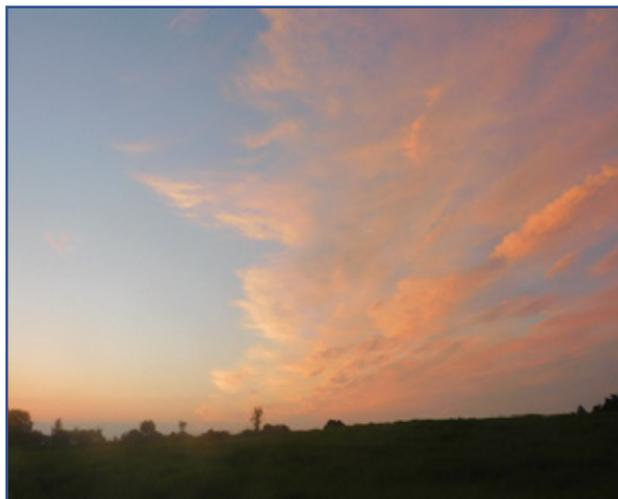
若い鹿にも角が生え始め、かっこうつけて闊歩しています。困ったのはイノシシです。ヤマユリの根を掘って食べています。人間が食べてもおいしいのだから分かるのですが……。でも、なぜウバユリの根は食べないのでしょうか。

賢治の森に行く途中の大森林道に毎年モリアオガエルが産卵する。それもイタドリの葉っぱである。確かにイタドリは3m以上になるから安心なのだろう。しかし、その下の水たまりは、いつ枯れるかわからないのです。でもどうにか生きている。野生は強い。

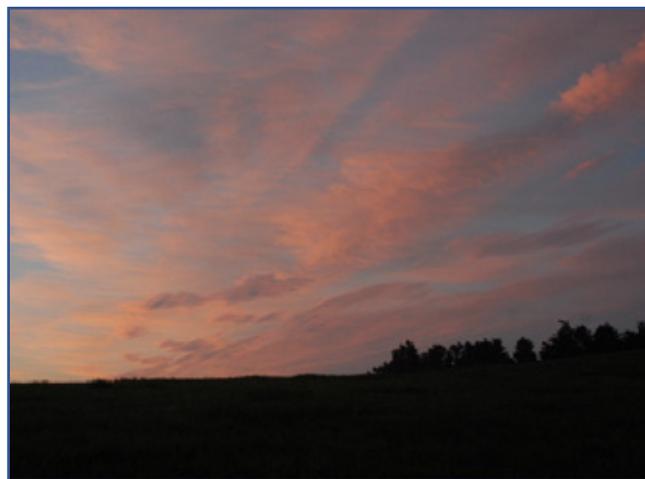
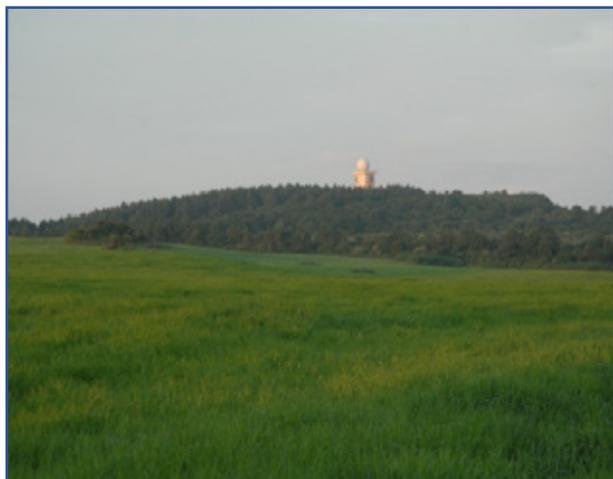
種山ヶ原の夜明け 7月28日朝

午前3時30分頃起きだし、明けの明星金星を目指して種山ヶ原へ。金星はきれいに輝いている。空にはハヤブサがホバリングしながら獲物を狙っていた。日本ジカの数がすごい。

いよいよ夜明けだ。



朝日指す草原・物見山・アメダス





種山ヶ原—北上平野—須川岳



賢治の森詩碑「牧歌」—北上平野



モリアオガエルの産卵



種山ヶ原—北上平野—焼石

6月29日 物見山の東菊も種になって飛んでいったので、草刈りをしました。





7月24日の大雨で登山道が壊れ、修復に努力するも市が対応してくれるらしい。シーズン中でもあり、急いで欲しい。急遽応援してくれた千葉、千田氏二人に多謝



市が対応してくれるらしい。シーズン中でもあり、急いで欲しい。急遽応援してくれた千葉、千田氏二人に多謝



7月28日 物見山登山道・駐車場・1,2kmの市道草刈りに12名のボランティアが来てくれた。暑い中本当にありがたかった。小竹リーダー、菊池春、菊池敬、千田伸、千田義、熊谷、平塚、田村、安西、千葉光。千葉時センター長も夏休みを使って参加してくれた。リーダーは喜んでた。31日は賢治の森だ。



おいわけ
「追分石」

昔、街道の分かれ道に旅人のために立てられた道標で、地図のない時代には貴重だったでしょう。種山ヶ原にも一つ立っています。賢治の森に行く遊歩道入口の近くの道路脇に立っています。

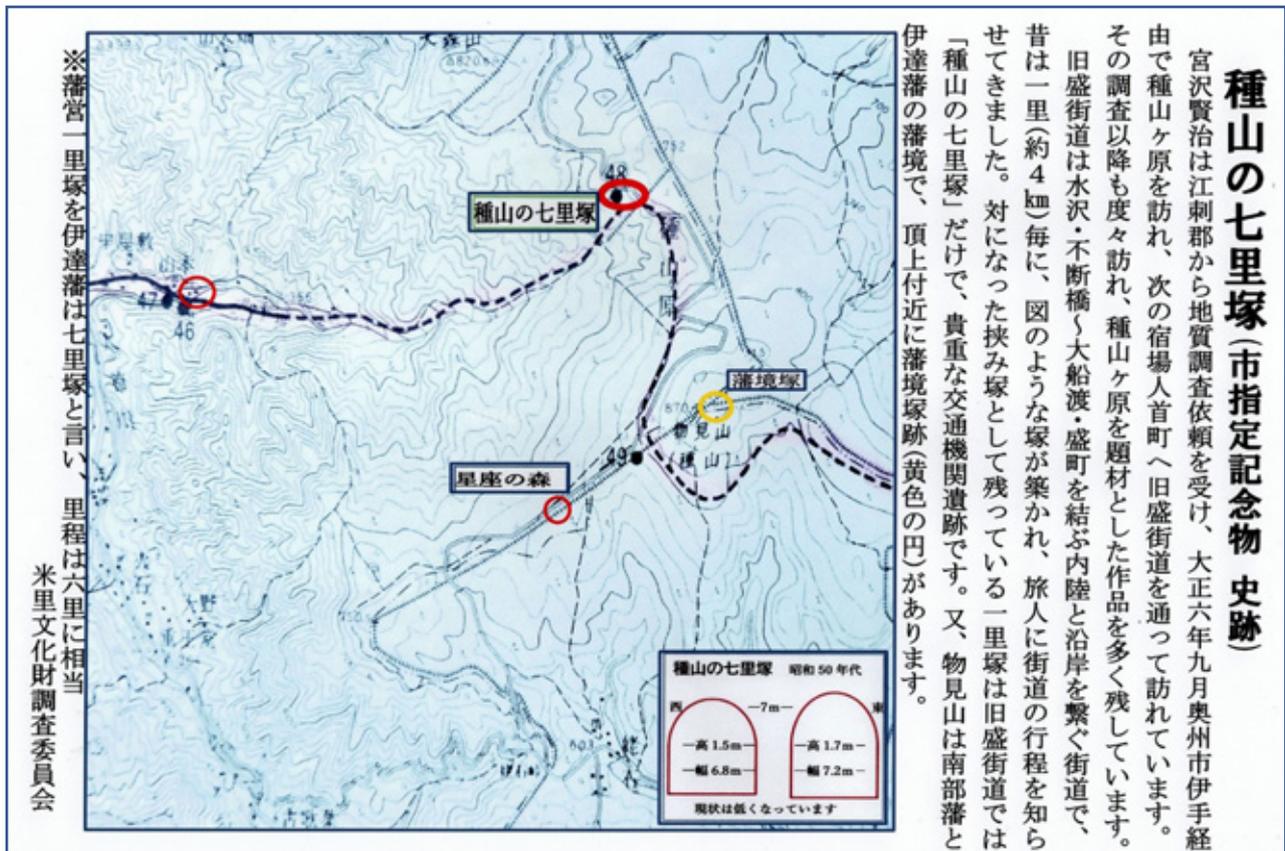


右ハ小友道 左ハ人首道

今回は米里を通る街道とそこにある追分石を紹介します。

「種山の七里塚」 <宮沢賢治も盛街道を歩いて人首町に行ったらしい>

昔の盛街道には七里塚が築かれており、古地図を見るとほとんどが対になっている。しかし、道路拡張等でほとんどが壊され盛街道に残っているのは「種山の七里塚」だけである。下の図のようにかなり高い土盛りの塚であったが、昭和50年頃の調査で1.5mと1.7mと低くなり、更に放牧地の中にあるために牛に踏まれて更に低くなってしまった。貴重な遺跡でもあり、市当局にお願いしたところ、管理している「江刺畜産公社」の方に牛が入れないように電柵を作っていただいた。ありがたいことです。





7月23日種山ヶ原の大雨で人首川ピンチ

人首町はそれほどの雨でなかったのですが、種山ヶ原が大雨で人首川は濁流に。牧草地なので、一気に流れ落ちるのです。10年程前も種山ヶ原が大雨で下川辺の田んぼが冠水したことを思い出します。今回は冠水せず、よかった。



『種山ヶ原の草花』 ヤマユリの香りが高原を流れています。



この地区の人々は県道の草刈りでも、畦道の草刈りでもユリの花は残してくれるんです。木細工地区民の県道草刈でも守ってくれていました。しかし、賢治の森ではツツジの木の中にあるユリだけはきれいに花を咲かせますが、ほとんどカモシカの餌食になっています。今年の一つでいいから咲いて欲しい。家の周りにユリをいっぱい咲かす熊谷さん宅では、イノシシがユリの根を土を掘って食べているのです。かわいそうです。ゆり根はおいしいからな。私達も道端の草刈りの時には、草花に気を遣っていますよ。



見晴らし台も全てご主人の手作り。2年前に亡くなったお父さんもひょうたん細工の名人でした。花好きの仲良し夫婦とおばあさんの住む一家です。



オニヤンマの羽化 幼い頃早起きし羽化したばかりのオニヤンマを勲章のように胸につけて自慢したことが懐かしく思い出されます。

最近気づいたことで、草刈りをしていると、なぜかオニヤンマが機械のそばでホバリングして、逃げようとしません。

不思議に思って、仲間と聞くと同じ体験をしているようだ。音に反応するのか、又草刈りで虫が飛び出すことを学習したのか。



「蝉の抜け殻」は幸運の象徴らしい。胆江日日の渡辺さんが次のような記事を書いていた。

奥州や中国では、セミの抜け殻は縁起がいいものとされている。何故かという、長い間土の中にいて羽化に成功したことで、「よみがえりと再生の象徴」「幸運の象徴」になる。更に「物事が成功する」「粘り強さ」にもつながる。

教会のベンチの脇に立っかけてあった鍬の柄に蝉の抜け殻がついていた。数日するといっぱいついてきた。

教会だけに「甦り」とはとてもうれしいことだ。

今年は蝉の脱け殻がとても多い。多い時で6個。何かいいことがあるのかな。



「オシドリ物語」 5月21日の出来事

草刈りに行く途中、道路下の田んぼを見ると、畦道あぜみちに2羽の鳥が休んでいました。きれいな鳥だな～。よく見るとオシドリでした。去年から気になっていた鳥でした。

2時間ほどして、また、あの田んぼを見るとオシドリの近くに何か隠れています。キツネでした。オシドリを狙っていたのです。

キツネが襲いかかろうとすると、オシドリの雄は気がついて、一瞬いっしゅん雌を連れて田んぼの中へ逃げました。そのすばやいこと。

キツネは田んぼの中へは入れず、うらめしそうにオシドリを見ていましたが、
すごすごと帰って行きました。めでたし、めでたし！

やがて2羽は畔にあがり「助かってよかったね。」と喜びあい、キツネを見送っ
ていました。



すぐ近くの鶴城でハスの池を発見。鶴田さんの池。

